

課題価値測定尺度から得られた子育て支援のあり方について

津田 由加子・前田 雄一

Ways of Childcare Support Obtained from Academic
Task-Values Evaluation Scale

Yukako Tsuda, Yuichi Maeda

豊岡短期大学 論集

第 16 号 別冊

令和 2 年 3 月 31 日 発行

課題価値測定尺度から得られた子育て支援のあり方について

Ways of Childcare Support Obtained from Academic Task-Values Evaluation Scale

津田 由加子・前田 雄一

Yukako Tsuda, Yuichi Maeda

はじめに

少子化対策に対する国の取り組みは1994年の「エンゼルプラン」に始まり、2016年「子ども・子育て支援法改正」、「ニッポン一億総活躍プラン」、2017年「働き方改革実行計画」、「子育て安心プラン」と、様々な政策が施行されてきた。その背景には、核家族化によって周囲に子育ての悩みを相談したり、助けを求めたりすることが難しくなっている状況があり、子育ての悩みを一人で抱え込むことがないよう地域で子育てを支援する地域子育て支援センター事業やつどいの広場事業などの重要性が高まっているといえる。

地域子育て支援拠点事業について厚生労働省のHPを見ると、地域の子育て支援拠点の機能及び支援者の役割として「学び」「支え」「親子の力を引き出す」の3点が挙げられている¹⁾。その中で、「親子の力を引き出す」については次のような内容が記されている。

「支援者は、親子に備わる『成長する力』を信じること。とくに親に対しては、支えや学びを得て自己肯定感を高め、子どもや子育てに向き合う余裕を回復する過程を重視すること。そのために支援者は、成長を阻む要因の解決に努め、様々な活動を通して刺激や学び得る機会をつくりだし、親子の力を引き出すように働きかけていくこと。」²⁾

つまり、子育て支援拠点となるセンター・ひろば・児童館などでは親自身の自己肯定感を高めるための刺激や学びを提供していく取り組みが求められているということである。

そこで本論では、子育て支援センターで行われている講座でのアンケートからこれらを目的とした子育て講座にはどのようなものがあるか、その講座で学んでいる内容にどのような価値が存在するか、課題価値評定をはかることで、子育てを通じた社会貢献や将来の親像など今後求められる子育て支援のあり方を導き出すことを目的とする。

研究の方法

2018年12月から2019年8月にかけて、A地域子育て支援センターにおいて、質問紙調査を行った。質問紙の構成は以下の通りである。有効回答者数はのべ93名である。

(1)属性

「性別」「年代」「子育て講座を知ったきっかけ」「子育て経験の有無」「子の性別」「子の年齢」「職歴と今後のキャリアについて」「子育て支援センターの利用状況」「センターの利用目的」を選択する項目を用いた。

(2)親の養育態度尺度³⁾

バウムリンド(1967)に基づき、養育態度を「応答性」と「統制」の2次元から測定する尺度である。「応答性」は子どもの意図・欲求に気づき、愛情のある言語や身体的表現を用いて、子どもの意図をできる限り充足させようとする行動、「統制」は子どもの意志とは関係なく、母親が子どもにとって良いと思う行動を決定し、これを強制する行動を指す。

1(ぜんぜんあてはまらない)～4(ぴったりあてはまる)の4件法で回答を求めた。尺度は以下の通りである。

表1 親の養育態度尺度の尺度構成

尺度	質問項目
応答性	<p>子どもが一人で遊んでいて、退屈そうだなと思った時、加わって一緒に遊ぶ。</p> <p>子どもを抱きしめたり、やさしい言葉をかけて愛情を示している。</p> <p>子どもがイライラしていると思った時、「どうしたの」と聞いてみる。</p> <p>あなたが家にいる時、ボール遊びやゲームなど、子どもと一緒に過ごす時間を持っている。</p> <p>どこかへ出かけて、子どもが疲れていると感じた時、休んだり、子どもを抱っこする。</p> <p>あなたが忙しい時、子どもが遊びたがっていても、遊ぶのを後回しにしてしまう。(*)</p> <p>子どもが間違えた行動をした時、どうしてその行動をしたのか理由を聞き、どうしたらよかったのかを話し合う。</p> <p>家族で遊びに行く時、親の都合だけではなく、できる限り子供の行きたいところを取り入れる。</p>
統制	<p>子どもがあなたと決めた約束を守らない時、その約束をもう一度教える。</p> <p>図書館や映画館など静かにしなければならない場所では、子どもを静かにさせる。</p> <p>子どもが自分のやるべきことをやらない時、「やりなさい」と言う。</p> <p>買い物に行って玩具を買う予定がない時に、子どもが玩具を欲しいと言って売場から動かなくても、玩具は買わない。</p> <p>子どもが友達と遊んでいて、友達が使っている玩具を無理やり取ってしまった時、それを返させる。</p> <p>子どもが寝る時間になっても、遊んでいて寝ない時、そのまましておく。(*)</p> <p>子どもが自分のやっていることがうまくいかず騒いでいる時、静かにさせる。</p> <p>子どもがあなたに対して悪い言葉遣い(「バカ」、「アホ」etc)をしたとしても気にしない。(*)</p>

(*)は逆転項目

(3)課題価値測定尺度⁴⁾

学校場面における授業内容の価値について測定する尺度である。これから学習する授業内容にどのような価値を求めるとかという内容を示す「課題価値希求」と、現在学んでいる内容にどのような

価値が存在するかという内容を示す「課題価値評定」をはかる。「興味価値」「制度的利用価値」「私的獲得価値」「公的獲得価値」「実践的利用価値」の6尺度からなる。しかし、子育てにおける価値を測定するため、「制度的利用価値」は就職や進学に関する価値であったため、より自らの子育てに役立てることができるかをはかる「個人的利用価値」に、「実践的利用価値」は仕事による社会貢献や将来直面すると考えられる問題への対処をはかる価値であったため、子育てを通じた社会貢献や将来の親像に影響を与える価値をはかる「公共的利用価値」とし、設問の一部を改めた。改めた内容についての妥当性は統計的に検討できていないが、心理学専攻教員と保育学専攻教員の協議によって採択した。7件法で回答を求めた。

表2 課題価値測定尺度の尺度構成

尺度	質問項目
興味価値	学んでいて、おもしろいと感じられる内容 学んでいて満足感が得られる内容 興味をもって学ぶことができるような内容 学んでいて好奇心がわいてくるような内容 学んでいて楽しいと感じられる内容 学んでいて知的な刺激を感じられる内容
個人的利用価値	学ぶことによって、よりすばらしい子育てに近づくことができる内容 学ぶと、子どものことがより理解できるようになる内容 今まで気づかなかった子どもの一面を発見できるような内容 子どもの個性を活かすのに役立つような内容 子どもに対して興味・関心を持つような内容 学ぶことで子どもを人間的に成長させられると思えるような内容
私的獲得価値	学ぶことによって、より自分らしい自分に近づくことができる内容 学ぶと、自分自身のことがより理解できるようになる内容 今まで気づかなかった自分の一面を発見できるような内容 自分の個性を活かすのに役立つような内容 自分のという人間に対して興味・関心を持つような内容 学ぶことで人間的に成長すると思えるような内容
公的獲得価値	身につけているとカッコイイと思える内容 学んだことが他の人に自慢できるような内容 詳しく知っていると他者から尊敬されるような内容 学ぶと人よりかしこくなると思えるような内容 知っている周囲からできる人として見られるような内容 学んでいることに誇りが感じられる内容
公共的利用価値	子育てに関わる社会的な問題を理解するのに役立つ内容 将来にわたって、一母親／一父親として活動する上で大切な内容 子育てを通じて社会に貢献しようとするときに役立つ内容 現在もしくは将来に、子育てにおける社会的実践でいかすことができる内容 現在もしくは将来に、子育ての中で直面する社会的課題を解決するのに役立つ内容 社会の理想とする子育ての中身に関係するような内容

結果

(1)尺度内相関、尺度間相関

親の養育態度尺度について Pearson の相関係数を算出し、表3に示した。その結果、「応答性」と「統

制」に 1%水準で尺度内相関が認められ、養育態度の 2 因子に関連があることが示された。

表3 親の養育態度尺度の尺度内相関(N=93)

	応答性	統制
応答性	-	0.433 **
統制		-

課題価値希求について Pearson の相関係数を算出し、表 4 に示した。その結果、「興味価値」と「公的獲得価値」との間、「個人的利用価値」と「公的獲得価値」との間以外に 1%水準の尺度内相関がみられた。特に、「興味価値」と「個人的利用価値」、「個人的利用価値」と「公共的利用価値」、「私的獲得価値」と「公的獲得価値」、「私的獲得価値」と「公共的利用価値」の相関性が高く示された。

表4 課題価値測定尺度(価値希求)の尺度内相関(N=93)

	興味価値	個人的利用価値	私的獲得価値	公的獲得価値	公共的利用価値
興味価値	-	0.632 **	0.282 **	0.007	0.369 **
個人的利用価値		-	0.574 **	0.146	0.673 **
私的獲得価値			-	0.529 **	0.641 **
公的獲得価値				-	0.372 **
公共的利用価値					-

課題価値評定について Pearson の相関係数を算出し、表 5 に示した。その結果、「個人的利用価値」と「公的獲得価値」との間に 5%水準、それ以外に 1%水準で尺度間相関がみられた。課題価値希求でも同様に尺度内相関がみられた下位尺度対である「個人的利用価値」と「公共的利用価値」との間、「私的獲得価値」と「公的獲得価値」との間、「私的獲得価値」と「公共的利用価値」との間については安定的に相関しているが、「興味価値」と「個人的利用価値」との間の相関性は低くなっている。

表5 課題価値測定尺度(価値評価)の尺度内相関(N=93)

	興味価値	個人的利用価値	私的獲得価値	公的獲得価値	公共的利用価値
興味価値	-	0.352 **	0.425 **	0.289 **	0.447 **
個人的利用価値		-	0.467 **	0.214 *	0.797 **
私的獲得価値			-	0.657 **	0.664 **
公的獲得価値				-	0.470 **
公共的利用価値					-

親の養育態度尺度と課題価値希求、課題価値評定について Pearson 相関係数を算出し、表 6 と表 7 に示した。親の養育態度尺度の「統制」と課題価値希求の「公的獲得価値」に 5%水準で有意差が見られたものの、概ね有意差は見られず、親の養育態度と価値評価の関連性があるとは言い難い。

表6 親の養育態度尺度と課題価値測定尺度(価値希求)の尺度間相関(N=93)

	興味価値	個人的利用価値	私的獲得価値	公的獲得価値	公共的利用価値
応答性	0.011	0.035	0.063	0.181	-0.104
統制	-0.014	-0.006	0.017	0.245 *	-0.067

表7 親の養育態度尺度と課題価値測定尺度(価値評定)の尺度間相関(N=93)

	興味価値	個人的利用価値	私的獲得価値	公的獲得価値	公共的利用価値
応答性	-0.104	-0.083	-0.057	-0.121	-0.045
統制	-0.067	-0.134	-0.148	0.127	-0.117

課題価値希求と課題価値評定について Pearson の相関係数を算出し、表 8 に示した。概ねそれぞれの因子間で 1%水準の有意差が見られており、それぞれ対応する因子については、相関が強くみられる傾向にあった。

表8 課題価値測定尺度(価値希求)と同尺度(価値評定)の尺度間相関(N=93)

		価値評定				
		興味価値	個人的利用価値	私的獲得価値	公的獲得価値	公共的利用価値
価値希求	興味価値	0.663 **	0.163	0.206 *	0.125	0.241 *
	個人的利用価値	0.45 **	0.46 **	0.368 **	0.17	0.478 **
	私的獲得価値	0.287 **	0.289 **	0.69 **	0.486 **	0.439 **
	公的獲得価値	0.141	0.157	0.501 **	0.764 **	0.308 **
	公共的利用価値	0.269 **	0.283 **	0.442 **	0.333 **	0.522 **

(2) 価値希求と価値評定の関係

価値希求と価値評定における変化を検討するために、対応のある t 検定を行い、その結果を表 9 に示した。その結果、「個人的利用価値」と「公的獲得価値」で 1%水準の有意差がみられ、「個人的利用価値」では価値希求が、「公的獲得価値」では価値評定のほうが高かった。このことにより、子どもに対する理解や子育てについては子育て講座に対して抱いていた期待には少し見合わないとする評価が、かっこよさや他者からの尊敬については子育て講座が好影響を与えているとの結果が見られた。それ以外の因子については価値希求と価値評定に有意な差がみとめられないことから、概ね期待値に近い成果が得られているものと考えられる。

それぞれの因子の最大評点が 42 点であることを考慮すると、「興味価値」「個人的利用価値」については比較的子育て講座への期待および評定が高い項目と考えられる。

表9 価値希求と価値評定の平均の差の検定(N=93)

	価値希求		価値評定		t値
	平均値	SD	平均値	SD	
興味価値	36.38	4.36	36.71	4.6	0.8694
個人的利用価値	34.61	5.13	32.33	7.21	3.3241 **
私的獲得価値	28.67	7.14	28.56	7.5	0.2016
公的獲得価値	22.53	7.96	25.67	7.26	5.7767 **
公共的利用価値	29.85	5.9	28.88	7.59	1.3912

** : p<.01

(3)センター利用頻度と価値希求・価値評定の関係

価値希求と価値評定との間の変化の要因を検討するため、「属性」として収集した情報と価値希求・価値評定との間で t 検定を行った結果、センター利用頻度と価値希求において有意差が見られる項目が見いだされたため、表 10 に示した。センター利用頻度については、月 12 回未満を「利用頻度低」、月 12 回以上を「利用頻度高」として検定を行っている。この結果、「公的獲得価値」において 1%水準で有意差がみられ、センター利用頻度低の参加者のほうが高かった。このことより、センター利用頻度が低い参加者のほうが、子育て講座に参加するにあたって、知識や実践を得ることで周囲との差別化が図られることに大きな期待を示していると考えられる。

表10 センター利用頻度と価値希求における平均値の差の検定(N=93)

	利用頻度低(n=53)		利用頻度高(n=42)		t値
	平均値	SD	平均値	SD	
興味価値	36.3	3.93	36.48	4.84	0.1932
個人的利用価値	34.13	4.93	35.21	5.32	1.0037
私的獲得価値	29.58	7.13	27.52	6.99	1.3981
公的獲得価値	24.51	8	20.02	7.16	2.6511 **
公共的利用価値	30.06	5.32	29.6	6.54	0.3651

** : p<.01

しかし、センター利用頻度と価値評定については有意差が見られた項目はなく、センター利用頻度の高低に関わらず、公的獲得価値が向上していることは表 9 の通りである。

(4)子どもの人数と親の養育態度の検定

親の養育態度と価値希求・価値評定には相関性が見られなかったが、親の養育態度は子どもの人数と関連しており、t 検定の結果を表 11 に示した。その結果、「応答性」「統制」因子ともに 5%水準

で有意差があり、「応答性」では単数子(養育している子どもが1人)のほうが高く、「統制」では複数子(養育している子どもが2人以上)のほうが高くみられた。このことより、単数子では子どもの意図や欲求を重視して関わり、複数子では親が子どもにとってよいと感じるものを促して関わる傾向が示唆された。

表11 子どもの人数と親の養育態度における平均の差の検定(n=91)

	単数子(n=35)		複数子(n=56)		t値
	平均値	SD	平均値	SD	
応答性	26.00	3.34	24.34	3.56	2.2215 *
統制	24.09	2.53	25.45	2.68	2.4065 *

* : p<.05

まとめと今後の課題

本研究では、子育て支援センターで行われている子育て講座にはどのようなものがあるか、その講座で学んでいる内容にどのような価値が存在するか、課題価値評定を測ることで、子育てを通じた社会貢献や将来の親像など今後求められる子育て支援のあり方を導き出すことを目的として、質問紙調査を行った。

その結果、子育て講座の参加者は「興味価値」や「個人的利用価値」、つまり子育て講座の内容に興味や関心、知的好奇心をもっており、子どものことや子育てについてより深く理解できると期待していることが見出された。また、子育てを通じた社会貢献や将来の親像に影響を与える価値である「公共的利用価値」や学ぶことによる自己理解・自己発見の項目からなる「私的獲得価値」についても一定の期待が見られた。今回の研究の中で最も期待度が低いとされた、知識を得ることで周囲と差別化が図れると考える「公的獲得価値」については、子育て支援センターをあまり利用していない参加者からの期待が高いことが示された。

また、子育て支援後の評定については、「公的獲得価値」について向上が見られたことより、学ぶことによって一定の差別化が図れるのではないかとの感覚を得ることが出来ているのではないかと考える。そして、多くの因子において期待と評定の間に有意差が出なかったことについては、期待された内容を十分満たしているために目立った向上も大きな低下も見られなかったものと推測される。「個人的利用価値」については若干の低下が見られたが、これは子育て講座が知識的な内容に限らず、造形活動や身体表現・運動に関連する内容についても取り上げていることが要因として考えられる。

親の養育態度については、子育て講座への期待に影響すると考えて質問紙に加えた内容であったが、子育て講座への期待とは関連せず、子どもの人数との関連に留まった。

本研究においては、子育て支援センターが行う子育て講座には、興味や関心を呼び込む効果や子どもや子育てに関するより深い理解を提供する効果といった、子ども・子育てに第一義的に関わる効果のほかにも、将来の親像の形成に寄与する効果や自己理解や自己発見を促す効果があることが示唆されている。また、センターを頻繁に利用していない参加者には、知識を得ることで周囲と差別化が図れると考える参加者もあり、子育て講座には子育て支援センターを活用したいが現状あまり活用できていない親を呼び込む効果も期待できるであろう。

今回の課題点は、「属性」として得た「職歴と今後のキャリアについて」や「センターの利用目的」を十分に統計的検定に活かすきれなかった点である。昨今、教育分野や産業分野で「キャリア」の視点が大きく取り上げられている。キャリアというと一般には「職業的経歴」がイメージされがちだが、中央教育審議会答申(2011)⁹⁾によると、「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出して行く連なりや積み重ね」を指す。職業生活だけでなく、家庭生活や子育て、地域との関わりや娯楽・レジャーも含めた、人生において担う役割に焦点を当てる概念であり、「生き方」や「生きがい」に通じる概念である。近年の社会情勢を見ると、専業主婦・主夫として家事や子育てを一手に担う経済的な余裕が失われており、子育ても含めた家庭的キャリアと職業的キャリアを両立させる必要がある。そのためには、現状子育ての多くを担っている母親が復職や人生観の再構築について吟味するための物理的・精神的余裕が不可欠であり、その領域においても子育て支援センターが情報提供や援助を行う余地がある。また、利用目的についても「ママカフェ」など、子育てをする親の居場所・息抜きとしての子育て支援センターの役割がクローズアップされている。本研究で、子育て講座の評定として将来の親像の形成に寄与する効果や自己理解や自己発見を促す効果が見られたことより、「こどものためのセンター」だけではなく「子育て親のためのセンター」でもあることが示唆された。このことから、子育て講座としても「どのようなニーズに焦点を当てるのか」といったねらいを明確に設定した講座づくりが求められる。

本研究の成果をもとに子どもや親それぞれが自身のキャリアを模索していくために子育て支援センターや講座担当者はどのようなことができるか、そのためにどのような講座を打ち出すことが効果的であるかの情報を精査し、提案していきたいと考える。

引用文献・参考文献

- 1)厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室。(2014). 地域子育て支援拠点事業 実施のご案内. 厚生労働省.
<http://mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/gaido.pdf> (2019年9月28日16:20)
- 2)同上.
- 3)中道圭人。(2013). 父親・母親の養育態度が幼児の自己制御に及ぼす影響 静岡大学教育学部研究

報告(人文・社会・自然科学篇), 63, 109-121.

- 4)伊田勝憲. (2008). 課題価値測定尺度の妥当性検討 釧路論集 : 北海道教育大学釧路港研究紀要, 40, 41-48.
- 5)中央教育審議会. (2011). 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申).
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf (2019年9月28日 20:50)

